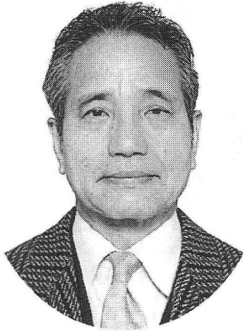


この素晴らしいネーミング 『咬合誘導』—進化する私の咬合管理—

日本歯科大学歯学部小児・矯正科学講座
教授 荻原和彦



■ 略歴

1967	日本歯科大学歯学部卒業
1967	イタリアペルージャ外国入国大学入学 (7ヶ月)
1968	同大学院小児歯科専攻 (指導教授故菊池進) その後助手講師
1996	主任教授 (小児歯科)
1981	アメリカ・タフトス小児歯科 (主任 G.E.White)
1981	客員教授
1987	中国薬西医科大学口腔医学院・客員教授 (1ヶ月)
2002	教授 (附属病院・小児矯正歯科)

□小児歯科臨床としての咬合誘導

小児期の臨床で最も重要な分野は「咬合誘導」いい変えれば咬合管理と考えている。それは従来の予防矯正や抑制矯正でもない小児歯科臨床の土台の中から誕生したものである。それを深田はあえて『咬合誘導』と命名した。

□私の咬合誘導の本質

矯正学の一分野であるところの予防矯正などとは異なったものでなければならない。小児歯科臨床の現場でディスクレパンシーを有する臨床例で抜歯することへの嫌悪や矯正臨床で用いられる固定式への拒否などが再々みられることである。

□顎態調和法 (Eco-gnatholo-orthopedics)

顎態調和法とは矯正臨床では一般に用いられていない床矯正装置 (可撤式) を応用し、上下の歯列弓を拡大することにより非抜歯にて咬合管理をする手法である。矯正学における診断基準は第一大臼歯の前後関係により I 級・II 級・III 級としたが、顎態調和法では Simmon の診断学を応用し犬歯関係を重要視する。オーソオドントは狭義では骨に作用することのない位置不正の矯正法を意味するが、オーソペディックという概念をもって歯槽弓に作用させる。

□そして OGIHARA WELLNESS ORTHOPEDICS

初め本法は Pediatric Orthodontics Orthopedic (POO テクニック (1988 年)) と呼んでいたが後に成人でも可能であることから「顎態調和法 (2001 年)」に変わった。2004 年上海に指導するに当り「OGIHARA WELLNESS ORTHOPEDICS」と改名した。

今回は以上の内容を症例を交えて報告する。